

メルヘンハウス通信

今月の和とく情報

名古屋帯の由来

大正期の服装改善運動中に、現代の名古屋女子学校の創立者によって考案されたことから、名古屋帯と呼ばれるようになりました。服装改善運動とは生活改善運動の一環として推し進められた、従来の和服の機能面および衛生面をいかにして克服するか、という服装の合理化を目的とした運動です。

これからの和とくポイント

名古屋帯とはどんな帯？

袋帯より、長さを短くすることで太鼓結びが一重でできるようになり、軽くて締めやすい帯として周知され、当初は染め帯が主流でしたが人気が高まるに連れて織り帯も作られるようになり、使用用途も広がりました。

■金糸銀糸を使用したもの・・・訪問着、付け下げ、色無地に合わせて準礼装

■その他のもの・・・洒落訪問着、小紋、紬などのお洒落着や普段着

袋帯を省略化して長さが約1mほど短いので、帯結びもしやすく扱いやすく実際に着付けをしても、時間的にも早く着付けることができるので、ちょっとしたお出かけの普段着にもってこいです。

仕立て方の種類が沢山あり、帯結びのアレンジや体形の違いで仕立て方を変えることができます。

■九寸名古屋帯・・・仕立て前の帯幅が、約35cm。

クジラ尺で約9寸である事から九寸名古屋帯と言われ、芯を付けて両端を織り込んで仕立てます。

■八寸名古屋帯・・・仕立て前の帯幅が、約30cm。

クジラ尺で約8寸である事から八寸名古屋帯と言われ、芯なしでかがるだけで反物幅のまま仕立てます。

九寸名古屋帯の仕立て方は、主に下の4種類あり見た目の形も特徴も違います。

■名古屋仕立て・・・胴回りは帯地を折って仕立ててありますので、前幅の調節いらずで初心者の方にはおすすめですが、長身の方やふくよかな方はさけた方が良いでしょう。

■松葉仕立て・・・シンモスなどの裏地をつけ手先は15cmくらいかがってあります。前幅の調節ができ、長身の方やふくよかさんにおすすめです。

■東京仕立て・・・垂れから手先まで開いた仕立て見た目は袋帯と同じ形をしていますが、帯シンが見えたままになります。前幅の調節ができ平らになるので収納も楽です。

■開き仕立て・・・東京仕立てにシンモスなどの裏地をつけます。帯の長さを増すときに足し布をしやすいのも特徴です。



今日もきものの気分

やしま呉服店からのお知らせ

7月の催事・イベント

◎祇園ツアー・・・14日(日) 15日(月)

※詳細はお店までお問い合わせください

カルチャー

◎ポーセラーツ教室・・・18日(木)

つまみ細工やカゴバッグ作りもしています♪



さくらきもの学院

時代の変化と共に必要とされる「前結び」日本の伝統衣装を継承するには必要な着方だと思います、是非お試し下さい

◎たくみの会・・・8月11日

越中おわら女踊りの振付を学びます

レッスンのお申込受付ます♪

・マンツーマンレッスン：初等科6回

・専科マイアップレッスン：15,000円/5回

・1dayレッスン：500円/回

※詳細はさくらきもの学院事務局まで

